

大学間協定を軸とする地域間相互発展モデルづくり

徳山大学と国立高雄餐旅大学の交流を通じた試み

Construction of Inter-Regional Mutual Development Model to the Axis of the Inter-University Agreement: A Case Study on the Exchange Program between Tokuyama University and National Kaohsiung University of Hospitality and Tourism

楊 政樺、陳 福川、陳 千浩、甘 唐冲
李 一民、李 岳道、黄 招憲、紙矢健治

分類：教育（370）

キーワード：地方創生、大学間協定、国立高雄餐旅大学

1. はじめに

筆者らは、国立高雄餐旅大学において、すでに16年間をこえる同僚として、強い絆を持つ。徳山大学と国立高雄餐旅大学は2011年1月に交流協定を締結し、徳山大学はこれまで高雄餐旅からの交換留学生を5期（年）にわたって受け入れた。また徳山大学海外就業体験プログラムは高雄餐旅大学を拠点にやはり5回行われた。地方創生が国家戦略として位置づけられ、地方の活性化は着実に進んでいるし、また進めなければならない。徳山大学は2015年度の文部科学省の「地（知）の拠点」（C.O.C.）指定校となり、山口県周南市を拠点とする地域との協働を強化することとなった。これを受けて本稿は、徳山大学と国立高雄餐旅大学の大学間協定を軸とする地域間相互発展モデルづくりをテーマとし、たがいが立地する山口県の周南市を拠点とする周南地域と高雄市を拠点とする大高雄地区の交流を通じた相互発展モデル構築についての試みを行うことにした。

2. 国立高雄餐旅大学の「位置」について

国立高雄餐旅大学（以下、高雄餐旅と略す）の2011年度の国際ランキングは世界35位である。

392

Table 3. (continued)

University	Total Score	Hospitality Research Field										Weighted Score	Total Appeared Number	
		ACF	EDU	ENV	FSM	HRM	IT/MIS	LAW	MKT	ORM	STM			OTH
25 U. of Houston	7.10	1.00		1.00	0.50	0.33		3.17	0.50	0.60		0.23	16	
26 ULPGC	7.00				1.00			1.00	1.00	3.00	1.00	n/a	17	
27 U. of Strathclyde	6.67		1.00	0.33		2.17		1.50				1.67	0.32	12
28 Sejong U.	6.58	0.67	1.25					3.33	1.00		0.33	0.39	14	
29 San Diego State	6.33	1.00				3.33		1.00		1.00		0.53	10	
30 France's IMHI	6.25					1.50	2.50		1.25	0.50	0.50	0.57	9	
31 Seattle	6.00							1.00	3.00	1.00	1.00	n/a	17	
32 U. of Massachusetts	5.83							3.00	0.83		2.00	0.49	8	
33 U. of Denver	5.50	3.00				0.83				0.67	1.00	0.42	9	
34 U. of Hawai	5.17	3.83					0.33			1.00		0.29	11	
35 NKHC	5.00					4.00		1.00				n/a	6	
36 Victoria	4.50		1.00			2.00		0.50	0.50		0.50	n/a	10	
37 U. of Western Australia	4.33						2.17	1.33	0.33		0.50	n/a	12	
37 KyungHee	4.33	0.33						2.00	0.67	1.33		0.14	10	
37 U. of Waikato	4.33							1.00	2.33		1.00	0.43	7	
40 U. of Delaware	4.17	0.33						1.33	1.83	0.67		0.26	13	
40 George Washington	4.17	0.50	0.50			0.33		0.33	0.83	1.67	0.22	9		
42 Queen Margaret U.	4.00			0.67	1.00		1.00		0.33	1.00	0.17	7		
42 Yonsei	4.00					0.67		3.33	3.00			n/a	7	
44 Florida International	3.83	0.50				1.00		0.33	1.00		1.00	0.16	7	
45 Texas Tech	3.67					0.67		3.00				0.20	12	
46 Eastern Michigan	3.50		1.00			0.25		1.00		0.50	0.75	n/a	9	

(continued)

(出所) 国立高雄餐旅大学ホームページ『Hospitality & Tourism Management』
ランキング (2011) による。

高雄餐旅を中心とする台湾のホスピタリティ教育は、日本の観光・観光学の教育よりも相当進んでいる。日本の観光学・観光教育について、ピザム(2014)は、日本の大学における「観光学」の状況についてホスピタリティ・観光経営の分野、ニュージーランド(5位)、香港(6位)、台湾(9位)、韓国(11位)に比べてもおくれをとっていることを指摘している。その理由には6つの点をあげているが、そのうちの3つの点について、

日本社会と政府は観光・ホスピタリティ産業を主要産業と位置づけたことが過去になく、それら産業育成に十分な資源を割いてこなかったが故に、それら産業界従事者への敬意があまり育成されず、高度な教育を受けた若者の就業希望が産業規模ほどにはない。観光関連プログラムを持つ大学は、経営や現場運営面での教育をせず、社会学・文化人類学・地

理学・余暇研究等の観点からの教育を実施した。経営学・商学以外で育成された教員が教える学部学科にいる大多数の学者には、産業界にとって何が重要な経営問題かの視点が欠如するが故に、ホスピタリティ観光経営査読付き英文学術誌に向けての研究もしなければ投稿・出版もしない。¹⁾

と述べている。つまり、観光、観光学がまだ他の分野に比べて学術的な「位置」が確立されておらず、人文科学・社会科学等の観点で観光、観光学の領域をカバーしようとしたことに加え、産業界の課題を正確にとらえられず、結果として国際的な研究も多くなかったと指摘している。

ピザムはまたアメリカでの観光学は、1930年代から50年代にかけて事例研究 (Case Studies) を中心とする物語の語り部モデル (Story Tellers)、1940年代から70年代にかけて実地の質問調査による準実証的研究 (Quasi-Empirical Surveys) を中心とするプロフィール分析家モデル (Profilers)、1970年代から2005年ごろまで実証的および概念的的研究 (Empirical & Conceptual) を中心とする他の社会科学分野研究手法の模倣モデル (Copy Cats)、そして同じく実証的および概念的的研究 (Empirical & Conceptual) を中心とする独自実証研究による他学術分野への輸出モデル (Innovators) への歴史的なモデル変遷を示しているが、このアメリカを中心とする英語圏との学術交流を推進してきた台湾の観光・観光学は、日本をリードし、アメリカ型の発展をとげてきたといえる。

李福登 (2012) によると

台湾の観光教育発展史をさかのぼると、そのはじまりは醒吾商業専科学校と文化学院 (現在の中国文化大学) が観光事業学科 (科、系) を設置した時である。…しかし、これらの観光学科は、それら学校の教育の一

1) アブラハム・ピザム「なぜ、日本の学者は世界のホスピタリティ・観光経営英文査読付き学術誌にほとんど出版がないのか?」『観光文化』(221号)、巻頭言、公益財団法人日本交通公社、2014年4月。

つにすぎなかった。民国84年に国立高雄餐旅管理専科学学校が開学し、観光・ホスピタリティ・レジャー等の専門大学としての始まりとなった。餐旅教育は、はやい発展をとげた。統計資料によれば、普通大学に20大学、(技術及職業教育)大学には48大学にまで増加し、とりわけ私立大学では学生募集の主力学科となった²⁾。

産業界の高雄餐旅に対する関心も高く、また産業界との「校外実習」制度を軸とする連携レベルはきわめて高い。台湾の大学段階の教育機関には、教育部高等教育司所管の大学・独立学院と技術及職業教育司所管の科技大学・技術学院・専科学学校がある³⁾。高雄餐旅は、大学教育全体に相当のインパクトを与え、餐旅教育は台湾の大学教育の主流になった。現在では高雄餐旅の校外実習の連携企業は200を超える。

3. 高雄餐旅「二専」時代の基礎(1996-2002)

国立高雄餐旅大学の前身である国立高雄餐旅管理専科学学校は、1995年12月に高雄市小港区に創立され⁴⁾、当初は二年制専科学学校であった⁵⁾。台湾では「二専」と略されるが、日本の制度では短期大学に相当し、副学士が授与される教育機関である⁶⁾。高雄餐旅は短大として船出した時代に、筆者1(楊

2) 李福登博士は、「餐旅教育之父」と称される。技術職業教育賞などの受賞がある。国立高雄餐旅大学の創設者であり、現在は東方設計学院董事長である。李福登『自在集』人生書局、2012年8月8日、p38-46「台湾観光餐旅教育発展之展望」を参照されたい。高雄餐旅は国立高雄餐旅管理専科学学校(1995-2000)、国立高雄餐旅学院(2000-2010)、国立高雄餐旅大学(2010-)へと急速に発展し、規模を拡大してきた。

3) 文部科学省ホームページhttp://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/015/siryo/05120501/008/006.htmにわかりやすい表があるので参照されたい。

4) 「台湾餐旅教育簡史(1977-2001)李福登氏の貢献を中心に」『徳山大学論叢』(第76号) 潘江東、楊政權、紙矢健治「台湾餐旅教育簡史(1977-2001)李福登氏の貢献を中心に」『徳山大学論叢』(第76号)、p105-118を参照されたい。

<http://ypir.lib.yamaguchi-u.ac.jp/tu/metadata/935>

5) 独立行政法人大学評価・学位授与機構ホームページhttp://www.niad.ac.jp/n_kokusai/info/taiwan/index.html

6) 国立高雄餐旅大学ホームページを参照されたい。

<http://www.nkuht.edu.tw/main.php>

政樺)、筆者2(陳福川)、筆者3(陳千浩)、筆者4(甘唐沖)、著者5(李一民)、筆者7(黃招憲)、筆者8(紙矢健治)が赴任した。筆者1(楊)と筆者2(陳)は航空業界の実務家である。筆者3(陳)はワインのソムリエとして、台湾では随一の評価を持つ。筆者4は旅行業界の知識が豊富であり、特に中国の観光においては評価が高い。筆者5は、高雄餐旅旅館管理科(系)主任をつとめ、台湾のホテル業での校外実習を定着させた。現在は、国立高雄応用科技大学管理学院観光事業系に勤務し、同学科の主任などをつとめた。筆者6(黃)は救国団を退職後、国立高雄餐旅管理專科学学校準備処に就職し、長年、主に在外華僑の帰国事業に携わったので、国際的なイベントの企画催行については、きわめて評価が高い。筆者8(紙矢)は1997年2月から2010年9月まで高雄餐旅に専任教員として勤務した。なお、筆者6(李岳道)は高雄餐旅の教員ではないが、2014年度から徳山大学の高雄餐旅を拠点とする海外就業体験プログラムの実施の全体的アレンジを担当している。

高雄餐旅の「二專」時代は、当時、教育部高等教育司所管の大学・独立学院と技術学院・五年制專科学学校・二年制專科学学校)の二つに大別され、南区(雲林県以南)において五年制專科学学校だけで22か所が林立し、共通入試によって選抜されていたが、高雄餐旅管理專科学学校は単独でも入試選抜を行った⁷⁾。大きな理由は、「二專(短期大学)」課程の1年次後期、2年次後期において全面的な企業有給実習を必修科目で取り入れたからであり、半年ごとに新入生を受け入れる独特な学制をつくり出した。「実習就業室」は主任の潘江東氏(当時)が担当し、台湾のホテル、レストラン、旅行社などに「実習生」を送り出した。実習中、学生は大学にはもどらず、企業に勤務するので、担任となった教員は、毎週月曜日に視察に訪れる。国際的にも評価が高い高雄餐旅については、筆者1(楊)、筆者8(紙矢)らによる先行研究を参照されたい⁸⁾。

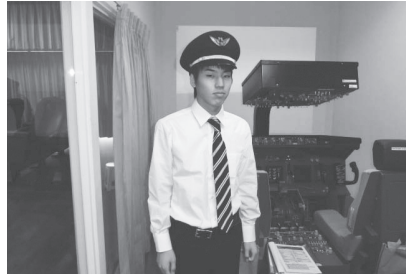
高雄餐旅の第1実習大樓、第2実習大樓(各々地上8階、地下1階)に巨

7) 財團法人技專校院入學測驗中心<https://www.tcte.edu.tw/>大學招生委員會聯合會<http://www.jbcrc.edu.tw/>などを参照されたい。

8) 潘江東、楊政樺、紙矢健治「台湾餐旅教育簡史(1977-2001)李福登氏の貢献を中心に」<http://ci.nii.ac.jp/naid/40019766323>



(写真1) IATA公認シミュレーション



(写真2) 徳山大学海外就業体験参加学生(2012)



(写真3) 機内シミュレーション



(写真4) 徳山大学・高雄餐旅交流 (2015)

大なシミュレーション設備がある。写真1から4は、航空会社での実習のためのものであり、このほかにホテル、レストラン、パティシエ、西洋料理、中国料理などのシミュレーションがあり、企業での実習に即応するための実務教育が行われている。

4. 高雄餐旅の日本交流

国立高雄餐旅大学の日本との交流提携は、2006年度に城西国際大学の提案を受け入れる形で始まった。続いて京都学園大学、徳山大学、山口大学の順に徐々に拡大していく。特に山口大学との協定は、2007年12月の第16回東アジア国際フォーラムにおいて筆者8（紙矢）が台湾のホスピタリティについて基調講演を行った縁で、その後2010年2月9日2010年度に訪問し、その後、山口大学経済学部と国立高雄餐旅学院間の部局間協定につながった⁹⁾。筆者8が周南市にある徳山大学に赴任した後、筆者1から5、および7との緊

2015年12月 紙矢健治他7名：大学間協定を軸とする地域間相互発展モデルづくり

密な連携を保ち、まず2011年1月に筆者8（紙矢）、村瀬秀輝学生支援センター次長（現、学校法人徳山教育財団法人本部担当部長、学生支援センター長）が高雄餐旅を訪問し、交流協定を締結するにいたった。

5. 高雄餐旅大学生の長期校外研修(2011.9-)

徳山大学の村瀬秀輝学生支援センター次長(当時)より、周南市の藤吉グループでの1年間の長期「校外実習」を実施することになり、それにともない藤吉グループの伊藤和昭代表取締役社長（当時）と伊藤吉郎氏（現、代表取締役社長）一行が高雄餐旅に赴き、講座を持ち、そのうえで2011年後期から1年間派遣留学において徳山大学が受け入れる学生向けの面接を実施していただいた。周南市のインバウンドにとっては、すでに5年目の息の長い取り組みとなっている¹⁰⁾。

また、高雄餐旅から山口大学への交換留学生も2012年度から来県し、藤吉モデルにより、校外実習が湯田温泉のホテルで実施されている。これについては、山口県と広島県を拠点に観光バスを運行するおおすみ観光を傘下に持つおおすみグループの大隅正和CEOの尽力により、藤吉グループに続き、山口市湯田温泉の西の雅ときわの宮川和也社長の高雄餐旅での講演・面接を経て、同ホテルにおける校外実習が実現した¹¹⁾。

6. 海外就業体験プログラムの実施（2011-）の高雄餐旅での実施

徳山大学は2011年8月から5回にわたり海外就業体験プログラムを実施してきた。この海外就業体験プログラムは、徳山大学の岡野啓介学長の発案に

9) 山口大学国際戦略室 <http://www.iassc.jimu.yamaguchi-u.ac.jp/kokusai/data/details/ta7.html>

行政院（内閣）國家發展委員會の公務出国報告「日本國立山口大學國際交流」に詳細が記されているので参照されたい。

http://report.nat.gov.tw/ReportFront/report_detail.aspx?sysId=C09903403

10) 藤吉グループ会社概要 <http://www.fujiyoshi-group.com/corp/> を参照されたい。同社は、県内有数のふぐを扱う企業であり、周南市に5店舗を展開している。

11) おおすみグループ <http://www.osumi-group.jp/>

西の雅常盤 <http://www.n-tokiwa.co.jp/> のホームページを参照されたい。

より、筆者8（紙矢）のルートを通じて2011年度に初めて実施された。初回となった2011年度は福祉情報学部2名の学生が参加し、高雄餐旅を拠点に、福祉施設3か所での就業体験となった¹²⁾。

2回目となる「徳山大学海外就業体験プログラム」は2012年9月に実施された。正式な科目「OSP (B)」として単位化された（2単位、選択科目）。正式科目化に先立ち、同年3月に岡野学長が自ら高雄餐旅および就業体験を行う機関を視察し、大学として協力を要請した。2012年度に正式科目化された後、9月に経済学部3名、福祉情報学部1名の計4名が参加し、高雄餐旅を拠点に7日間の日程で実施された¹³⁾。

なお2015年度まで5回実施され、計10名の実施実績がある。

(表1) 徳山大学海外就業体験プログラム

	訪問地	訪問機関	拠点
第1回	高雄市、台南市	徳輝苑、髓喜家園、鳳山早療中心	国立高雄餐旅大学
第2回	高雄市、屏東県	文化部衛武宮芸術芸術中心（メディアセンター・準備処）、高雄啓智学校（特別支援学校）、心路文教基金会、沐恩之家（薬物中毒者厚生施設）PTS台湾公共テレビ他	国立高雄餐旅大学
第3回	高雄市、台中市	PTS台湾公共テレビ 新民高級中学（佐々木陽太先生訪問）	国立高雄餐旅大学
第4回	台北市、高雄市	三普旅行社（HIS三賢旅行社）、遠東航空本社、復興航空本社、台湾横河、信用国際旅行社、高雄市信義国民小学、高雄市青年創業協会他	国立高雄餐旅大学 台北城市科技大学 東方設計学院
第5回	高雄市、屏東県	農業委員会（農業省）高雄区農業改良場、PTS台湾公共テレビ、ART101、米堤、大手化学企業他	国立高雄餐旅大学 慈恵医護管理専科学校

12) 紙矢健治「海外就業体験プログラム台湾(2011)実施報告」『徳山大学論叢』(第73号)、p207-216.http://www.tokuyama-u.ac.jp/local/ronso73_kamiya.pdf

13) 紙矢健治、岡野啓介、楊政樺、周伝久、王穎駿「徳山大学OSP (B) 2012年度実施報告」『徳山大学論叢』(第74号)、p29-44.
http://www.tokuyama-u.ac.jp/local/ronso75/ronso75_kamiya_etc.pdf

7. 金融機関との協働型海外就業体験プログラムへの進化

2014年春、株式会社西京銀行が山口県の地域人づくり処遇改善支援事業実施業務に係る事業を受託したのを受けて、筆者8（紙矢）は同事業のアドバイザーに担当した¹⁴⁾。年度末までの短期間の事業であるが、アジアにおける販売ルートを開拓し、中小企業の売り上げを増やし、従業員の待遇を高める試みであり、きわめて有意義なものとして注目された。筆者8（紙矢）はただちに筆者7（黄）と協議を行い、7月3日に台北城市科技大学での山口県産品展示イベントを行うこととした¹⁵⁾。筆者8（紙矢）の提案により、西京銀行地域連携部の田村健児主任調査役（現、小倉支店長）が、2014年度の「徳山大学海外就業体験プログラム2014」に同行し、9月8日に台北城市科技大学民生学院を訪れ、同事業の実施が可能かどうか確認し、筆者7（黄）に実施を直接要請することとなった。筆者7（黄）は2012年度より台北城市科技大学講座教授として赴任し、翌2014年度からは同大学民生学院院长を務めている。

これは徳山大学・高雄餐旅の大学間協定を軸に連携が繋がったものである。また田村主任調査役のアイデアで山口県産品の展示だけではなく、台北城市科技大学民生学院の学生向けの料理レシピコンテストを開催すること



(写真5) アテンド先で西京銀行平岡頭取（中央）、金丸専務（右2）両端が学生

14) 地域人づくり処遇改善支援事業実施業務に係る事業

<http://www.saikyobank.co.jp/personal/information/docs/201406200.pdf>

15) 詳細については、

「大学・銀行協働による海外就業体験プログラム - PBLとしての「徳山大学OSP2014台湾」の実践」『徳山大学論叢』（第79号）、p55-65.を参照されたい。

<http://ypir.lib.yamaguchi-u.ac.jp/tu/metadata/967>

楊 政樺・田村 健児・周 傳久・李 岳道・紙矢 健治「OSP(B)の地元課題解決型授業への転換を図る取り組み～課題としてのインバウンドチャーター誘致に関する取り組み～」『徳山大学論叢』（第76）、p79-91.<http://ypir.lib.yamaguchi-u.ac.jp/tu/Detail.e?id=97220150731104527>

とし、2015年3月3、4日に開催した¹⁶⁾。また、9月11日に「さいきょうぶちうまコレクション in 台北」を台北城市科技大学との共催で開催したさいには、同行の平岡英雄頭取、金丸眞明専務が、第5回「徳山大学海外就業体験プログラム」に、翌日11日、12日に合流して下さった¹⁷⁾。金融機関の顧客の付加価値を高める試みとして開始したが、周南市を拠点とする商品の売り込みを実施することとなった。

2015年度9月に実施された「第5回徳山大学海外就業体験プログラム2015」は、筆者8人によるそれぞれのシーズを十二分に発揮する内容となった。また、平岡頭取、金丸専務をはじめ、西京銀行の協力によって、ますます充実したものになった。

「第5回徳山大学海外就業体験プログラム2015」の成果については、次号以降に詳細を紹介したいと思う。日程については表2を参照されたい。

(表2) 徳山大学海外就業体験プログラム2015日程表

月 日	日 程	備 考
9月8日(火)	MM036 高雄小港国際空港に到着 14:00 入国手続き 14:30 PTS台湾公共テレビ南部多効能スタジオでのゼミ 19:00 高雄300E区ライオンズクラブ創会会長聯誼会に参加	国際的にも著名な周傳久記者によるゼミ(台湾公共テレビの協力は5回目) 高雄尊龍大飯店 (高雄国軍英雄館泊)
9月9日(水)	09:00 国立高雄餐旅大学との交流 14:00 農業委員会高雄区農業改良場を訪問 16:30 慈恵医護管理専科学校との交流	潘江東副校長 Dr. Tze-chung Huang 韓大勇主任(通識教育中心) (高雄国軍英雄館泊)
9月10日(木)	10:00 ART101 14:00 米堤髪容造型五甲店 18:00 夢時代(参観)	呉米堤老師が同行 (高雄国軍英雄館泊)

16) 山口新聞2015年3月4日 <http://www.minato-yamaguchi.co.jp/yama/news/digest/2015/0304/4p.html>

17) 西京銀行ホームページ <http://www.saikyobank.co.jp/personal/information/docs/201509082.pdf>

月 日	日 程	備 考
9月11日(金)	10:00 大手化学企業を訪問 16:45 台湾横河にて西京銀行平岡頭取、金丸専務と合流	(高雄国軍英雄館泊)
9月12日(土)	午前中、平岡頭取、金丸専務、台湾横河の内山秀俊協理に同行 09:30 しゅうなんエフエム78.4の番組「サタデイホットブレイク」の「徳山大学ラジオ」に国際電話で出演 MM035学生2名帰国	市内を視察 出演は平岡頭取、紙矢、学生1名 高雄小港国際空港 西京銀行 平岡頭取、金丸専務帰国

筆者8名は、それぞれの専門性を発揮し、今後、徳山大学が立地する周南市を中心とする周南地区と国立高雄餐旅大学が立地する高雄地区の経済的な交流を活発化させ、大学間協定を軸とする地域間相互発展モデルづくりを進めていきたいと考える。とくにホスピタリティ・ツーリズムの分野において、力を発揮できると考えている。

7. まとめにかえて

ピザムの指摘に対しては、大学間協定を軸にたがいが立地する地域を結ぶ試みを行うことで、少なくとも産業界や大学を中心とする地域経済に貢献するという取り組みを行ったことで日本の教育機関としては少しでも挽回できたのではないかと考える。徳山大学海外就業体験プログラムと国立高雄餐旅大学の「校外実習」の相互協力によって、たがいに必要とするパートナーとしての位置に至ったと考える。なお、以下の2つの建機を行い本稿のまとめとしたい。

建議 1

徳山大学は、国立高雄餐旅大学のほか、台湾では中国文化大学と姉妹校となっている。しかし、すでに10年以上の協定交流がおこなわれているが、研究・学術系の大学との交流は、交換留学生を受け入れるだけのものであり、一方の大学からの交換留学生を受け入れるだけの、互惠の交流とはなっていない。

いない。一方で、徳山大学と台北城市科技大学は交流協定を結んでいないが、国立高雄餐旅大学を軸とする筆者7（黄）と筆者8（紙矢）の絆によって、周南市を拠点とする金融機関と台北城市科技大学が包括的連携協定を結ぶなど、実務的に利益につながる有機的交流を重ねてきた。2015年度に文部科学省「地（知）の拠点づくり」に採択された徳山大学は、国際交流を通じて、さらにこのルートを通じて、地域の拠点としての役割を果たすことができる。

建議2

徳山大学・西京銀行間の包括的連携は、その点で「高次モデル」となるものであり、徳山大学の教育にとって最も大重要な役割を果たしている。大学による地域に対する貢献は、エビデンスが必要不可欠である。産官学の連携といっても基本的には「学」は受託事業や補助金に頼るのではなく、学生のための教育実践として、また現有の教員の研究・教育シーズを活用したものである場合は、企業側は大学がアテンドしたものについては、文書において「その貢献」を表さなければ産学連携とはならない。連携は依頼文書によって始まり、可視化できる貢献度についての文書が必要である。西京銀行との連携は、そうしたエビデンスをとりつつ連携を進めるうえで、連携モデルとなるので、大学との連携を考える企業には参考としていただきたい。

謝 辞

2015年度の「徳山大学海外就業体験プログラム2015」に合流してくださった平岡英雄頭取様、金丸眞明専務様のご厚意に心から御礼申し上げます。また、2014年度では多忙な中、全行程に同行してくださった田村様（現、小倉支店長）には、PBL化に決定的なパワーを頂戴しました。そのご熱意がなければ、到底こうした成果はなかったと思います。また、台湾横河の内山秀俊協理の全面的なご協力に心から感謝申し上げます。そしてなにより本稿を掲載できるにいたったのは、徳山大学経済学会事務局を担当して下さっている浅原幸子様のおかげであり、心からの御礼を申し上げたいと思う。